

糞線虫浸淫地域における高齢者 療養施設での糞線虫疫学調査

加計呂麻徳洲会診療所 松尾敏明
愛知医科大学寄生虫学 伊藤誠
愛知医科大学寄生虫学 木村英作

【背景】

- 沖縄県や鹿児島県奄美群島には現在でも糞線虫保虫者が約10%いるといわれている。
- 糞線虫保虫者のほとんどは65歳以上といわれている。

【目的】

糞線虫浸淫地域における高齢者療養施設での糞線虫保虫者の割合を調べる。

【調査地】



【方法】

- 糞線虫診断

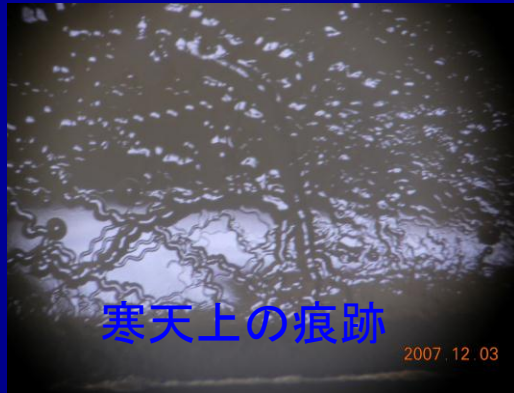
普通寒天平板培地法

- 検定方法

フィッシャー直接確率計算法:

2×2分割表において期待度数が5以下のものがある場合の独立性の検定法。

普通寒天平板培地法



【結果】

被験者

	被験者数 (人)	被験者割合 (%)	平均年齢 (歳)
老人ホーム K	53	96.4	84.5
療養型施設 O	27	90.0	81.9
加計呂麻島島 民	110	7.0	66.6

糞線虫保虫者の割合

	保虫者 (人)	非保虫者 (人)	保虫者割 合(%)	
老人ホーム K イベルメクチン(+)	1	52	1.9	「 p < 0.05
療養型施設 O イベルメクチン(-)	4	23	14.8	」 「
加計呂麻島島 民	3	107	2.7	」 p < 0.05

【結論】

- 糞線虫浸淫地域において高齢者が集団生活を送る施設では保虫者の割合がさらに高い可能性があるが、施設により保虫者の割合には差があった。
- 高齢者が集団生活を送る施設での駆虫薬投与は効率的に同地区から糞線虫を排除する可能性が示唆された。